

まきびと カルデアの牧人 ～校長だより～ No.18

卒業生としての思い ～ 八雲会総会 ～

7月1日、33名の会員の皆様にご出席いただき、4年ぶりに八雲会総会が開催されました。久しぶりの開催で、また懇親会を取りやめたこともあり例年よりやや少ない出席者でしたが、地元の卒業生の方々にお会いすることができてたいへん嬉しく思いました。

総会に先立ち、在籍生徒の2年生、岩田実井さんと宮川薫乃さんによる「スマホライフプロジェクト」という探究活動の発表の時間をいただきました。これは、雲南市教育委員会主催の「スペシャルチャレンジ Jr.プログラム」という市内高校生の主体的な活動を支援する事業に参加して取り組んできたものです。岩田さんと宮川さんは、地域の高齢者がスマホを利用することによって生活を豊かにしてほしいとの思いからこの活動を始め、調査や結果の分析をしながら活動を進めてきました。地域の方々に協力をいただきながらの活動ですので、地元の卒業生の皆さんに発表を見ていただいたことは、今の高校教育への理解を深めていただく上で意義のある機会になったと思います。

総会の冒頭、土江博昭会長よりご挨拶があり、生徒数が減少していく中で、今こそ八雲会をはじめ大東高校を取り巻く地域の関係者による支援が必要であること、実際にこれまでも様々な取り組みをしていただいていることをご説明いただきました。また、私からは、大東高校の現状と本年度の取り組みや教育活動について説明をいたしました。会員の方からは、広報に関するご意見やご提案、教育活動に対する激励のお言葉もいただき、卒業生の皆さんの母校に寄せる熱い思いを感じましたし、たいへん心強く思いました。

大東高校は、今年創立105年目になり、これまでの卒業生は1万4千名を超えました。92歳になる私の母も大東高等女学校の卒業生で八雲会の会員の一人です。女学校時代に当時の校長先生に可愛がっていただいたことなどをよく話してくれ、今でも女学校の卒業生であることを誇りに思っています。私が大東高校に赴任することになった時も、たいへん喜んでくれました。卒業生の皆さんが母校に対して愛情と帰属意識を持ち続けていただくことは、現在の学校運営にとっても大きな力であり、卒業生は学校の財産でもあります。その中でも総会に出席していただいた皆さんは、母校との繋がりを大切に思っていたいただき、教育の改善や発展に強い期待を抱いていただいている方々だと思っています。

今後も八雲会の皆様の期待に応えられるよう、魅力化を進め発展していくように学校を運営していきたいと思っております。ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

